

H30年建築2級(前期) 学科試験 問題

No1 換気に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- 1 室内空気の二酸化炭素の濃度は、室内の空気汚染の程度を表す指標として用いられている。
- 2 室内外の空気の温度差による自然換気では、温度差が大きくなるほど換気量は多くなる。
- 3 事務室における必要換気量は、室の容積でその値が変動し、在室者の人数に関係しない。
- 4 第1種機械換気方式は、地下街や劇場など外気から遮断された大きな空間の換気に適している。

答え--- 3

事務室の必要換気計算は在室人数により計算される。

No2 採光及び照明に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- 1 照度は、単位面積あたりに入射する光束の量である。
- 2 天窓採光は、側窓採光よりも採光量が多い。
- 3 人工光源は、色温度が高くなるほど赤みがかった光色となる。
- 4 輝度は、光源からある方向への光度を、その方向への光源の見かけの面積で除した値である。

答え--- 3

光の色温度は、低くなるほど赤みがかかる。高くなれば青白になっていく。

No3 音に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- 1 1点から球面状に広がる音源の場合、音源からの距離が2倍になると、音の強さのレベルは約6 dB 減少する。
- 2 残響時間は、室内の仕上げが同じ場合、室の容積が大きいほど長くなる。
- 3 同じ機械を同じ出力で2台運転した場合、1台を止めると、音の強さのレベルは約3 dB減少する。
- 4 単層壁の透過損失は、同じ材料の場合、厚さが厚いものほど小さくなる。

答え--- 4

透過損失は、厚さが厚いものほど大きくなる。

この過去問は受講者専用のページです。
お申し込みされますと全ての過去問がご覧頂けます。
お早目のお申し込みお待ちしております。

受講お申込みはこちらから



<https://www.sekou-net.jp/entry/>